

「歌垣の自然大好き」 ～身近な恵みを受け自然と共に生きる 歌垣の子どもたち～

大阪府 能勢町立 ^{うたがき}歌垣小学校
6年 宮本 雅之 谷 優菜 濱 勝信



学校紹介



標高562mの^{うたがき}歌垣山の麓にある歌垣小学校は、大阪府の最北端能勢町の東部にあり、校舎3階からは校区の大部分が一望できる絶好のロケーションに位置します。創立138年目を迎える歴史ある学校です。

春、校庭のすぐ上の倉垣天満宮参道の桜が見事に咲き乱れ、1年の始まりを告げてくれます。夏、珍しい蝶や昆虫が顔をだし、夜空には、星がまたたきます。秋、歌垣の里は黄金色にきらめき、実りの秋を迎え、校舎からは樹齢1,000年を越える天然記念物の大イチョウが黄色く色づきます。そして冬、里山一帯が真っ白に雪化粧することもしばしばです。

このように四季折々の豊かな自然の恵みを受けている歌垣小学校です。

活動場所

歌垣小学校運動場のすぐ上に、学習林があります。生活科・総合的な学習の時間はもちろんのこと、自然クラブの貴重な学習フィールド、絶好の自然体験活動ができる場所となっています。

4年前から学習林になっている栗園には、“キマダラルリツバメ”という希少種の蝶が生息しており、その保護活動をするために地元地権者の協力を得ながら、歌垣小の学習林として、借り受けています。大阪みどりのトラスト協会を中心となって歌垣小学校も協力して管理しています。一昨年には、自然クラブ部員で栗の苗木を植えました。また、今年7月には、部員全員が鎌を持ち、長く伸びた草を刈り、熊手で草を集めるなどの作業をしました。大阪みどりのトラスト協会の人たちにも、草刈り機で学習林の整備作業をしていただいています。



サミットに参加してみよう… 今復の夢・希望・活動計画

- ・植物の品種改良をして、酸素をたくさん作る植物を作ることが夢です。
- ・私の住んでいる能勢町ではナラ枯れはありませんが、松枯れやほかの木が枯れないように見回ることから取組んでいます。
- ・去年の冬にオオムラサキの幼虫をエノキの木の葉の下で、見つけることができたので、オオムラサキが成虫になるところを見たいです。
- ・キマダラルリツバメ、ハリブトシリアゲアリについて、観察してみたいです。
- ・全国学校林サミット(全国子どもサミット)で、鳥の巣箱の報告をしていたので、歌垣小でも、巣箱をかけて鳥の観察をしてみたいです。
- ・サミットで名刺交換をしたので、また、いろんな交流をしてみたいです。



2012.8.6 学校林・遊々の森 全国子どもサミット in 京都

大阪・能勢町・歌垣小学校自然クラブ 発表要旨**(1) 活動テーマ**

『歌垣の自然 大好き』

～身近な自然の恵みを受け、自然と共に生きる歌垣の子どもたち～

(2) 学校名

大阪府豊能郡能勢町立歌垣小学校 自然クラブ

(3) 発表者

6年生 宮本 雅之 谷 優菜 濱 勝信

(4) 学校紹介

天然記念物 大イチョウ

大阪府の最北端に位置し、全校児童
54名の小さな学校です。創立138

年。歌垣地区は、なだらかな山々に囲まれた小さな盆地です。戸数約400戸。京都や大阪につながる旧街道が残り、古墳や寺社があちこちにあり、秋には、収穫を祝う子どもの伝統的行事「亥の子」が受け継がれています。古くから、米作りが盛んで、冬の気候を利用して、寒天作り、酒作りが行われ、江戸時代以降「銀寄」とよばれる栗の一大産地でもありました。小学校は校区を一望できる歌垣山のふもとにあり、運動場を少し駆け上れば、天然記念物の樹齢400年をこえる「倉垣の大イチョウ」「倉垣天満宮」を含む学習林があります。この学習林は、生活科・総合的な学習の時間はもちろんのこと、自然クラブの貴重な学習フィールドになって、絶好の自然体験活動ができる場所となっています。

自然クラブは3年生から6年生まで14名。月1回金曜日の5・6時間目に活動し、年間10回、四季折々の自然の恵みに感謝し、歌垣の自然を活かした体験活動を行っています。毎回、大阪みどりのトラスト協会の方々にお世話になっています。

(5) 主な活動内容（当日の発表で詳しく報告します）・

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| ①吉野地区で「ギフチョウ」観察会 | 環境の変化でギフチョウ激減 ミヤコアオイ栽培 |
| ②学習林での昆虫採集・観察・調査 | キマダラルリツバメ、オオムラサキ、玉虫、アオバズクなど |
| ③学習林の整備 | 栗の接ぎ木、草刈り、シイタケの菌づめ、収穫 |
| ④学校畑での栽培活動 | サツマイモ収穫・やきいも・鹿の被害対策 |
| ⑤歌垣川での水生昆虫調査 | カワゲラ・イトトンボ幼虫・サワガニ・トビケラ |
| ⑥自然を活かしたクラフト | 木に書く手紙、リースづくり |

(6) 児童の感想・今後やってみたいこと

- ・ギフチョウが減り、観察ができなくなり残念です。
- ・キマダラルリツバメの幼虫を育てるハシブトシリアゲアリについて、くわしく調べてみたいです。
- ・キマダラルリツバメは、夕方に飛ぶので学校にいる時間に見られないのが残念です。
- ・歌垣山登山口で見つけたオオムラサキの幼虫を今年の冬は育ててみたい。エノキの幼木を栽培してみたい。
- ・去年はアオバズクが大イチョウに来たけど今年はまだ来ていない。なぜかな？
- ・なかなか吉野川で魚つりができないので、ゆっくりつりをしたい。そして、どんな魚がいるか調べてみたい。



自然クラブ 昆虫採集



キマダラルリツバメ

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

- ・自然に興味を持つ子どもが増えた。
- ・疑問に感じたことを聞ける子どもが増えてきた。
- ・自然に対する目が育っていると感じる。
（どこにどんな生き物が住んでいるのかを理解し、知っている）
- ・自然の生き物に親しみを持ち、綴り方の作文に書くなど、その体験が表現活動にも生かされている。
- ・自然クラブでは、毎回さまざまな活動を行っており、『触れる・疑問に思ったことを専門家の方々（大阪緑のトラスト協会の天満さん・原田さん）にその場で聞ける』という貴重な体験をしている。
- ・「命」に対する認識が、日々深まっている。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

- ・学習林の整備。
- ・その時間だけに終わることなく、そこでの学習をより日常的な活動につなげること。
- ・自然クラブの回数の少なさ（月に1回、2時間）。
- ・子どもの成長に対して、指導者側がどのような活動を提供できるか。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

- ・“ギフチョウ”の保全については、観察時期が産卵時期の4月なので、どのような活動にするのか、持っていき方が課題。
- ・ハリブトシリアゲアリも今後観察させたい。
- ・6、7月のチョウの観察について、学校教育課程の中に位置付けて、どのようにしていくか。
（生活科や総合の時間と関連させて）
- ・オオムラサキの保全のため、エノキの幼木を育て、サナギが越冬し、羽化までさせたい。
- ・自然について自然クラブ以外の子どもたちに伝えきれていない側面がある。
→興味をもってもらえるよう、その時期その時期にお知らせをしていくなど。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

- ・指導者としての目をもつ…季節ごとの自然と子どもたちをどう出会わせるか？
- ・地域の人にも広めていく活動を。
- ・理科、生活科、総合的な学習、自然クラブなど、学校教育活動の中で身近な自然体験ができる機会を多く持ちたい。

大阪府 能勢町立 ^{うたがき}歌垣小学校

ひととつながり 思いをかさねる 「ふるさとの山」はわたしたちの里山

淡輪小と学校林

広さ→約2ha

位置→学校から南へ約6km



「ふるさとの森」入り口



大阪府 岬町立 ^{たんのわ} 淡輪小学校
6年 箕谷 樹 淵原 さくら

各小学校の取組
⑬

学校紹介

淡輪小学校は、大阪府の最南端に位置する岬町にあります。創設は1873（明治6）年で現在の位置に校舎を移設したのは1977（昭和52）年のことです。

本校では、「一人ひとりの子どもを大切にする教育」を学校教育の柱に据え、実践を積み重ねてきました。2001（平成13）年からは「岬町福祉協力校」として位置付け、地域や家庭と協働の教育を推進しています。

昨年度からの2力年は「人間性豊かで 活力ある子どもの育成」を研究テーマに、文部科学省指定「人権教育研究推進事業」に取り組んでいます。



活動場所

学校林は、学校から南に6.2km離れた紀泉高原国有林の中にあります（広さ約2ha）。国有林の一部を国から50年間貸して頂けることになり1983（昭和58）年に取組をスタートしました。「ふるさとの森」と名づけられた里山には、この30年間、学校やPTAはもちろん、学校林育樹会、岬町みどりの少年団、大阪府農と緑の総合事務所、森林組合、漁業組合等、様々な方々が集ってつながり合い、思いを重ね合ってきました。1991（平成3）年には“緑化活動の推進優良校”として、内閣総理大臣から表彰して頂きました。



サミットに参加してみて…

今復の夢・希望・活動計画



子どもサミットに先立ち、発表者の子どもたちは、リハーサルを兼ねて、全校集会で発表を行いました。

本校では、毎年5年生が遠足で学校林を訪れますが、全ての子どもに学校林を紹介できたことで、取組の裾の尾が広がっていくのではないかと期待しています。また、学校林看守人の方は「間伐材を手作りの魚礁に…」と、森に携わる人と海に携わる人とを、さらに結びつけていくようなアイデアも持ちます。

今後も、人と人とを温かくつなぐ『集いの場』『学びの場』として、これまでの伝統を継承・深化させていきたいと考えています。



(1) 活動のテーマ

「ひととつながり、思いをかさねる 『ふるさとの山』は、わたしたちの里山」

(2) 学校名

大阪府泉南郡岬町立淡輪小学校

(3) 発表者

6年 箕谷樹 淵原さくら

(4) 学校紹介

淡輪小学校は、大阪府の一番南に位置する岬町にあります。校区には海水浴場や漁港、里山などがあり、豊かな自然に囲まれています。地域の方々や、関係機関のみなさんからの協力や応援もたくさん頂いていて、総合的な学習の時間には、潮干狩り体験、磯浜見学会、学校田での田植え・稲刈り体験など、様々な活動に取り組んでいる学校です。



(5) 活動フィールドの様子

淡輪小学校の学校林は、「ふるさとの森」と名付けられています。広さは2ヘクタールくらいで、学校から南に6kmほど離れたところにあります。学校林の活動がはじまって、最初に取り組んだ作業は、ひのきの植樹でした。6年生が卒業記念として、5カ年計画で、合計5900本のひのきを植えました。また、活動2年目に、PTA役員経験者を中心に作られた学校林育樹会のみなさんが、作業小屋、トイレ、ツリーハウス、遊歩道、テーブル、ベンチなどを整備して下さいました。



(6) 活動の内容や様子

主な取り組みは、岬町みどりの少年団の活動、淡輪小学校PTA学校林育樹会の活動、淡輪小学校5年生の校外学習の3つです。

みどりの少年団は、「緑と親しみ、緑を守り、緑と共に育つ」をスローガンに、今から25年前に結成されました。夏のデイキャンプ、秋の収穫祭、春のつどいのときに、自然観察や、学校林の整備に取り組んでいます。PTA林育樹会は、「自然を通して親子のふれあいを深め、森林の働きや自然を守る大切さを学ぶこと」を目的に、10月中頃に行います。農と緑の総合事務所の方に森林教室を、育樹会の方に木工教室を開いて頂き、間伐作業や草刈活動にも取り組みました。



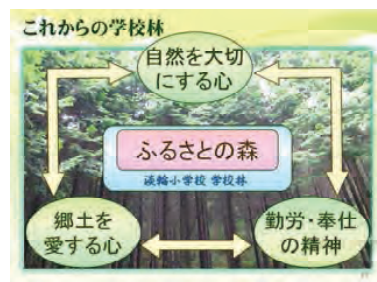
(7) 学校教育と活動の関連

淡輪小学校では、5年生が、秋の遠足で学校林を訪れます。片道6kmほどの距離を、行きはウォークラリーを楽しみながら歩きました。学校林では、まず、「森林教室」で、自然環境を守る大切さや、森林を守れば海が豊かになることなどを学びました。その後、3つのグループに分かれ、間伐作業の見学・体験、間伐材の皮むき体験、間伐材を活用した工作に取り組みしました。間伐する木に結びつけたロープを、みんなで力を合わせて引っばって木を倒したときの達成感や、木の皮がスリリとむけ落ちたときのこころよい感触は、とても貴重な体験でした。



(8) 活動を通じて学んだことや気がついたことなどの感想や意見

30年前に先輩たちが植樹してくれたひのきは、今、すくすくと大きくなりました。そして、これまで、様々な方々に見守られて、立派な森林へと育ってきました。学校林には、「自然を大切にしたい気持ち」、「郷土を愛する心」、「勤労を尊び、進んで奉仕する気持ち」など、すばらしいものが、いっぱいつまっています。わたしたちも、先輩たちから受けついで温かい思いを、後輩たちへつないでいきたいと思っています。



森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

学校林の活動は、「山の活動を通して自然に親しみ心豊かな子どもを育てよう」という思いから、1983年にはじまりました。この間、学校林育樹会を活動の中心としながら、「緑と親しみ緑を守り緑と共に育つ」をスローガンに、岬町みどりの少年団を結成。「自然を通して親子のふれあいを深め森林の働きや自然を守る大切さを学ぶこと」を目的に、PTA 学校林育林会の活動を開始するなど学校林に関わる人や、関係諸機関の層が幅広くなくなってきました。5年生の校外学習の取組も含め、活動に参加した子どもたちの中にも、「自然を大切にしたい」「郷土を愛する心」「勤労を尊び進んで奉仕する気持ち」などが、受け継がれていっています。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

学校林の活動を開始して、はじめの5年でひのきを植樹し、その後5年間は下草刈り・つる切り・除間伐等の作業に取組ました。しかし、樹木が立派に生長するにつれて、作業が素人の手には負えなくなってきました。

また、大阪府岬町より頂いた補助・助成金を、育樹・管理に要する費用にあてましたが、財源不足の感は否めませんでした。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

日常の学校林の管理・整備、体験活動等の実施は、学校林育樹会が中心となっており、間伐等一部の専門的な作業は、森林組合に委託しています。また、財団法人大阪みどりのトラスト協会と、大阪府泉州農と緑の総合事務所に、技術面の指導・相談をお願いしています。

また、国の委託事業「学校林整備・活用推進モデル学校林設定事業」を活用したり、^{たんのわ}淡輪財産区からの助成金、廃品回収や緑の募金活動の収益金等を育樹・管理費用にあてたりし、財源不足を補いました。さらに、学校林創設時の校長先生から頂いた御厚意をもって施設整備を行ったりしました。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

本校は1983年2月から2033年3月までの50年間、国有林を「学校林」としてお借りする契約を交わしていて、現在30年が経過したところです。活動開始当時、卒業記念の植樹に参加した子どもたちは、現在保護者となって本校に帰って来て下さっています。また、町役場の職員、町議会議員等の立場から、学校林の活動を支援して下さいます。

里山に集い、人と人とながらっていく活動、自然の大切さを実感し、互いに思いをかさねていく活動は、時代や世代を超え脈々と受け継がれてきました。そして、この後いよいよ後半の20年間に入っていきます。諸先輩方の熱い思いを胸に、学校・PTA育林会・育樹会・みどりの少年団等、活動の主体者たちがさらに連携を深めていきながら、この息の長い活動を継承・発展させていきたいと思っています。